

事業名

結ぼう地域の絆～心・学び・安心～

目 標

子どもも大人も生き生きできる地域活動の創造

1. 取組の視点

校区には、阪奈道路・第二阪奈道路が通り、危険箇所が多く、不審者対応も含め、安全指導や見守り活動が熱心に行われており、各校園でPTAと連携した清掃活動や図書室の環境整備など活発に行われています。

また、各校園では確かな学力・豊かな心を育む取組として、本の読み聞かせや米の栽培等の体験学習、英語・情報・キャリア教育等の授業で地域人材の活用が進められています。

これらの事業を発展させ、地域教育協議会を核として、地域のネットワークをつくり、地域のつながりを深め、子どもも大人もより生き生きと活動できる取組を推進していきます。

2. 取組の概要

今年度は、事務局・コーディネーター会議を定期的に関き、情報交換を進めながら、地域のネットワークづくりを進めるとともに、協議会だよりの作成やホームページを充実させ、広報活動を活発に行いました。



の作成やホームページを充実させ、広報活動を活発に行いました。

地域教育協議会

の事業として、幼稚園の「ハローキッズイングリッシュ」や国際理解・英語のコミュニケーション力育成を目指し、外国人留学生による「英語アシスタント事業」を実施し、中学校の英語授業補助や幼稚園・小学校の行事補助に活用しています。また、今年から地域人材を活用した「ICT支援事業」も実施しました。



各校園では、地域ボランティアによる田植えやサツマイモ作り等の栽培活動やものづくり、読み聞かせ等の授業・行事支援が活発に進められました。また、見守り活動、図書・環境整備にも多くの地域ボランティアの方々に来ていただいています。地域の人々から学んだり、地域の方とふれあったりすることにより、子どもたちにとってもボランティアの方々にとっても生き生きと活動できる貴重な機会になったと考えています。



環境整備活動においては、PTA や自治会・指導協議会等の地域団体と連携しながら「クリーン作戦・花いっぱい運動」の取組を実施しました。



3. 成果と課題

「クリーン作戦・花いっぱい運動」も各校園で一定進んでいますが、来年は地域全体で「ひまわりプロジェクト」に取り組み、地域のつながりを深めたいと考えています。また、今年実施した防災視察を生かして、来年は地域全体で「安全・安心なまちづくり」を目指し防災教育に取り組み、「フェスタ in とみなん」の開催を考えています。



ボランティアの登録数も少しずつ増えてきていますが、来年度は、より地域のネットワークづくりを進めていき、ボランティアの活用をより活発にしていくことが必要と考えます。

事業名

めざせ!つなごう!それぞれの夢!～夢と誇りの持てる富南創造～

目標

確かな学力と豊かな心を育む生徒主体の教育活動の創造

1. 取組の視点

本校の生徒は、授業や部活動にまじめに取り組み、基本的な生活習慣の身につけている生徒が多い反面、自主性や積極性に欠ける面があり、幼児期の遊び等の体験不足からか、人間関係づくりの苦手な生徒やたくましさに欠ける生徒もいます。

これらのことから、自分たちで力を合わせて学校行事を創り上げ、達成感を感じる中で自己有意感を持ち、豊かな心を育てるとともに一人一人が輝いてくれること、体験学習を充実させ、様々な人とのふれあいの機会を多くすることによりコミュニケーション力とたくましさを身につけること、生徒同士の自浄作用を大切にしながら規範意識を身につけることを取組の視点としました。

2. 取組の概要

【一人一人が輝く学校行事の創造】

文化発表会・合唱コンクールは、実行委員の生徒が運営し、保護者・地域の方も招いて奈良県文化会館で開催しました。大きな舞台に立って歌うという経験は、中学生生活の大きな思い出となったことと思います。ことに、精一杯歌う3年の学年合唱は圧巻で、保護者も感動されていました。

体育大会は、競技・応援ともに全員が力をあわせて取り組みました。何よりも全員が最後まで気を緩めることなく一生懸命競技する姿が印象的な体育大会となりました。



体育大会の応援合戦

【生徒が主体的になって活動する生徒会活動】

生徒会は、挨拶運動に加え、「ハートフルディ」の呼びかけを行いました。また、以前から校内ポ

ランティア清掃を実施していましたが、今年は年間6回のボランティア清掃を行い地域へのお礼の意味も込め、学校周辺の溝掃除や落ち葉拾いなども行いました。吹奏楽部・ギターマンドリン部が高齢者施設に慰問演奏等も行いました。



ハートフルディ



ボランティア清掃

また、学年集会や全校集会は、生徒で運営し、生徒の発表する機会を多くつくるなどして、コミュニケーション力をつける取組も進めています。

【地域との連携・体験学習の取組】

1年では福祉体験や栽培実習、2年ではマナー



栽培実習

講習会、卒業生に贈るコサージュ作り等、地域の方を講師に招き、一緒に活動しました。



コサージュ作り

幼小中学校の連携としては、園児の体育大会見学・職場体験、教員の小学校見学会、生徒会が主催した小学生の体験入学等を行いました。

3. 成果と課題

様々な行事で生徒たちが生き生きと活動でき、体験学習により実社会に活用できる学力をつけられたこと、環境美化活動など、PTA・地域と連携した取組が進んだことが成果です。

来年は、地域と一緒に防災教育にも取り組みながら、より生徒が主体的に活動していくことが大切であると考えます。

事業名

いきいきワクワク富南タイム

目 標

『人とふれあい地域とつながる』をコンセプトに地域環境を生かした体験重視と、読書を通じた情操力の向上を目指す。

1. 取組の視点

本校は、これまで地域の環境を生かした学習を実施することにより、豊かな人間性の育成を図ってきました。自分たちが生活する地域社会と積極的に関わり、体験活動を通して学ぶ楽しさを味わい地域を愛する心やよりよい生き方・考え方を身につけようと考えたからです。また、児童が心躍らせる学習の場として読書活動を設定しました。「読書活動」に外部ボランティアの支援を得ることで継続してきたここ数年の実践は、地域の人と児童のふれあいを高め、地域と学校の繋がりを強くする大切な取り組みだと考えたからです。また、地域の方とのふれあいを大切にした取組を進めていきました。

2. 取組の概要

豊かな自然と地域の産業を児童が理解するためチャレンジタイム（体験学習）を設定しました。自ら体験することで地域に生きる人々の気持ちや思いを知り、自分の住む町を見つめさせ、誇りに思う気持ちを持たせたいと考えました。



3年生はイチゴ作りに取り組みました。5年生は米作りに取り組みました。収穫の喜びを感じる学習となりました。1年生は昔遊びを、2年生は

グランドゴルフを地域の万年青年クラブの方から教えてもらい楽しみました。経験豊かなお年寄りから学ぶ児童の表情も、教えてくださる方の表情も輝いていて素敵な学びの時間となりました。4年生は福祉を地域の方を通して学習しました。6年生はアートデーでの作品を本校教育週間で授業公開しました。また、新しい本を購入し図書室の補充を図りました。ファンタジータイムと名付け、毎週木曜日に行なう保護者ボランティアの本の読み聞かせと、学期ごとに行なう「野の花ぶんこ」の読み聞かせは児童に本の楽しさを実感させる重要な活動になっています。



3. 成果と課題

地域環境を生かした教育活動や地域の人々とのふれあいを重視した体験的な学習、地域に根ざした学習活動を実施することで、本校の児童は自分が住む町への関心を深め、地域に生きている意識を持たせることができました。また、継続的な読み聞かせ会は、本の楽しさを実感させ、読書量の増加に繋がり、感性や知的好奇心等の豊かな心を育てられました。その過程で保護者や地域の方々の学校に対する願いを知ることができました。また、地域の方々が学習活動に参加していただくことで、本校教育への理解を深めていただくこともできたと考えています。

事業名

“共に生きる” 希望あふれる ^{からす} 碓っ子

目 標

人間性豊かな児童を育むために、学校教育（図書館）環境の充実を図る。

1. 取組の視点

今年度は、学校教育環境とりわけ学校図書館環境の充実に取り組みました。

2. 取組の概要

本校規模（33 学級）では文部科学省が定める学校図書館図書標準は 13,120 冊とされており、約 6000 冊が不足しているという図書室の現状がありました。学校図書館環境の充実を図り、本事業実施により期待する子ども像「自ら本を手にする子」「本物に触れた感動を大切にする子」を実現し、人間性豊かな児童を育むために、地域の方々の支援を受けながら図書室の蔵書の整理に取り



組みました。また、一昨年度から来ていただいている図書ボランティアの方々の活動として、データ入力・バーコードラベル貼付・貸出カード作成に引き続き今年度も取り組んでいただきました。昨年までのラベルを一冊一冊剥がし、子どもたちが見やすい新しいラベル（分類番号の百のけたが大きな）に張り替える作業をしていただきました。一冊ずつ古いラベルを剥がし、張り替える作業は根気のいる作業ですが、丁寧にいただき、書棚に整然と並べられたラベルの新しくなった本を見ると、とても美しく、多くの手間をかけて作

業していただいたことをありがたく思いました。また、今年度は読み聞かせに取り組んでいただきました。以前から読み聞かせに取り組みたい意向はお持ちだったが、なかなか踏み切れず今年度からのスタートとなりました。聞いている子どもたちの生き生きとした表情を見ることができ、とてもやりがいを感じられています。今年度は図書準備室での読み聞かせでした。来年度はもう少し広い場所で、人数ももう少し多くし、読み聞かせ時間のニックネームも付けてと希望が膨らんでいます。



3. 成果と課題

豊かな人間性の育成は、本校保護者および地域の方々の強い願いです。その大きな手だてとなる読書活動推進のための図書ボランティア活動は学校教育環境の充実にも多大な功績をのこしました。子どもたちは読書により親しめるよう、読書環境は順調に整備されてきています。

次年度以降もボランティアの方々の活動が円滑に進めていただけるよう、受け入れ体制を充実させ、学校と地域との連携をさらに深めていきたいです。

事業名

ぐんぐん伸びよう笑顔いっぱいタイム

目標

園内の環境に関わったり、様々な人との運動遊びを通して、3歳児からの体づくりや生活への意欲向上、主体的な態度の育成を目指す。

1. 取組の視点

本園では、家庭で体を動かして遊ぶ経験が少ないことや、車での送迎が目立つ等、幼児の体力低下に繋がる状況が見られ、活動意欲への影響も懸念されます。そこで、幼児期にこそ、生きる力の基礎となる体力の構築や、主体的に活動に取り組もうとする意欲や態度の育成が必要であると考えました。園児への取組としては、3歳児からの発達段階に沿った計画的な運動遊びや、継続した栽培活動を行い、本年度は、さらに園児たちが心を解放して活動できる園内環境作りを進めることにしました。

2. 取組の概要

(1) 運動遊びの計画的な実施。

運動遊びの年間計画を見直しながら、外部講師による活動の機会も取り入れながら、発達段階に沿った運動遊びを計画的に実施しました。

友達と一緒に体を動かす楽しさを感じる園児が増え、日々の生活にも意欲的に取り組もうとする様子が見られるようになりました。外部講師による指導は、教員の実践力向上につながり、また、親子の「ふれあい運動遊び」や「体づくり駆け足」



等の保護者参加は、保護者に幼児期の体作りの大切さを啓発する機会になりました。

(2) 食への関心を高める栽培活動。

昨年度に引き続き、地域のボランティアの指導のもと、野菜等の栽培活動を行いました。園児は生長に期待を持ちながら世話し、園で食べたり家

に持ち帰ったりして、収穫の喜びを味わいました。保護者のアンケートでは、「自分たちで育てることで嫌いな野菜も食べるようになった。」など、栽培活動の成果が園児の姿に表れている記述が多くありました。

(3) 園内環境の整備

ボランティアの方と園児と一緒に芝生を運んだり、並べたりしながら保育室前に芝生を植え、寝転んだり裸足になったりして、のびのびと遊べる場作りをしました。2学期には、芝生で弁当を食べたり、3歳児や未就園児の遊び場になったりなどして活動を楽しみました。



3. 成果と課題

- ・外部講師の指導も取り入れ、年間を通して運動遊びを実施してきたことで、園児一人一人の運動意欲は高まり、繰り返し挑戦したり、自信をもって取り組む姿が見られるようになりました。
- ・継続して地域のボランティアの協力を得られていることで、幼児も保護者も親しみを感じて話しかけるなど良い関係が築かれつつあります。また、幼稚園からの一方的な要望だけでなく、地域の方からも気軽に声をかけてもらえるなど、協力体制も整ってきていることは、継続した取組の成果と考えます。

- ・幼児の心と体の成長を促すためには、今後も、限られた触れ合い活動の機会でも、よりよい親子関係の構築につながるような内容を検討していく必要があります。

事業名

「三碓っ子 わくわくだいさくせん」

目 標

自然や人とふれあいかかわりを深め 豊かな心や主体的に取り

組む意欲を育て、健康で安全な生活をする力を身につける。

1. 取組の視点

- 豊かな心や主体的に取り組む意欲をもったたくましい幼児を育むために、地域の方々や身近な人々と交流活動の幅を広げ、様々な経験や直接体験を通してふれあうことの楽しさや学びへの喜びにつなげていけるような取組を実施しました。

2. 取組の概要

- 年間を通して、様々な年代の人とふれあい関わりを深めることができるように事前の話を大切にしながら計画実施しました。

三碓小学校との交流では、最初は緊張感を感じていた子どもたちも小学生とのふれあいや先生たちとのふれ



あいを楽しみにし、11月の園内作品展では、5才児が、少し照れながらもうれしそうに作品展を案内することができました。



地域の教育力・人材を生かして“お話の会”“お茶会”“書き初め”“ふれあい会”を実施しました。

地域の高齢者の方から自分たちが住んでいる“みつがらす”の名前の由来を教えていただき、活動する中で、幼児の話し方やふるまいをやさしく受け止め、温かいまなざしで認めていただいたことはとても心豊かな体験になりました。



クラスや学年の枠を超えて様々な体を動かす遊びを取り入れた“わくわくタイム”を月一回実施しました。この遊びをきっかけに自分たちで鬼ごっこをしたり、園児がお互いに気軽に声を掛け

合う姿が見られるようになり、日曜参観では、保護者も子どもと共に体を動かして遊び、その心地よさやふれあって遊ぶ楽しさを感じてもらえるように“親子エクササイズ”を実施しました。



未就園児ひよこクラスでは情報交換や子育ての励みになるように親子でできるリトミックや制作・人形劇鑑賞等を

取り入れ、子ども達との交流では、優しくかかわり思いやりの姿が見られました。



園内の環境を子どもだけでなく保護者にも関心がもてるように見直し、環境作りや土改良をしました。栽培物の種類を増やしたり、家庭でも話題のきっかけになったり、収穫の喜びや感動もより大きなものとなり、周りの人たちと様々な発見・喜びを共有することができました。



3. 成果と課題

- 地域の教育力を生かし連携を密にし、幼児の生活経験を広げることができました。また、近隣保・幼・小・中との連携活動等、自分達のことを大切に思ってくれる人たちがいることに気づき、豊かな心を育むことにつながりました。
- 地域の方が参加していただけるような保育内容を計画したり、保・小・中との結びつきをより深め、一体となって子どもの育ちを見守り育てるような連携の在り方を探っていきたくいです。